

第26回 小諸・藤村文学賞表彰式



第26回「小諸・藤村文学賞」

【一般の部】759編、【高校生の部】975編、【中学生の部】656編、計2,390編の応募数となりました。2,300を超える応募は、9年連続です。すべての都道府県から応募があり、海外からも作品が届きます。この文学賞が応募者の皆さまにとって親しみやすく、大きな魅力を持つものに育ってきていることを感じます。

新型コロナウイルス感染症対策として、今年は、受賞者の皆さまとオンラインでつながるかたちで、表彰式を開催しました。 ※作品集は市立小諸図書館でご覧になれます。

今回、【一般の部】最優秀賞に輝いたのは京都府の植田郁子さん。これまで小諸・藤村文学賞に10回以上応募された努力家です。書くということをどのように考え、実践されているのか、伺いました。

どのようなきっかけで「書く」ときに熱心に取り组まれるようになりましたか？

書くようになったきっかけですが、私は子供の頃から「話す」ことがあまり得意ではなく、自分の思いを相手に伝えることが苦手でした。「言葉足らず」であったり、「照れ隠し」の為にふざけてしまったりして、相手に誤解を与え、不愉快な思いをさせてしまうことも多々ありました。

ですが、何故か「書く」ことは好きで、自分の思いをわりと上手に伝えることができたのです。学生時代から友達の間でも電話より手紙が好きで、よく文通をしていましたし、複数の友達と交換日記も楽しんでいました。

「自分を表現する一番の手段」として、書くことが自分には最適だったのだと、自然と書くようになった、という感じでした。